

九十九島は行くたびに 新しい発見がある

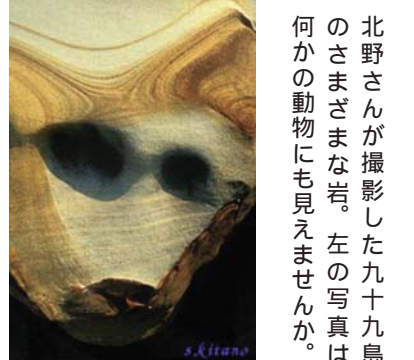


写真家 北野 末吉さん

72歳。中通町在住。趣味で育てていた洋ランの花などを撮るため30代後半から写真を始め、野山の花や風景などを被写体に写真を撮り続けている。特に、九十九島をテーマに撮った写真は多く、風景などを集めた写真集や絵はがきの発行、ホームページを通して幅広く九十九島を紹介している。また、市内の写真教室で撮影技術なども指導する。
(<http://www9.ocn.ne.jp/kita-s/>)

「九十九島の写真はもう撮り尽くしたでしょう」と言われることがありますが、何年撮り続けても、九十九島には行くたびに新しい発見があり、撮り尽くすということはありません。わたしは、九十九島の自然の美しさを写真でそのまま表現したいと考えています。また、九十九島に生息する植物や生き物にも関心があり、風景写真だけでなく、九十九島の岩場と植物の関係など、皆さんが普段見ない視点や新しい視点で写真を撮るようになっています。

今、最も注目しているのは、「九十九島の表情」です。例えば、長い年月をかけ侵食されてきた奇岩や、砂岩に含まれる鉄分が酸化し赤褐色に変色することで自然に作り出された岩の上の模様など、九十九島の岩が見せるさまざまな表情をとらえることです。これらの九十九島の岩の写真を組み合わせ、いつか個展を



開きたいと考えています。30代後半に写真を撮る以前は、釣りをするためによく九十九島へ出掛けていたので、九十九島への愛着は人一倍あります。だから、写真集や絵はがき、ホームページなど、わたしの撮った写真を通して、九十九島を知らない皆さんにその素晴らしさを知ってほしいと思います。写真だけでなく、遊覧船などで九十九島の自然や環境などを説明するボランティア活動をしているのも、少しでも多くの人に知ってほしい、伝えたいという気持ちが強いからです。「灯台下暗し」と言い、近くにあり過ぎるとその良さが分からないことがあります。市民の皆さんにも九十九島の良さを再認識してもらい、「佐世保の宝、財産」だと思って大切にしてほしいと思います。そして、九十九島が自分たちの「庭」であることに誇りを持って、その素晴らしさを伝えていきたいと思います。

北野さんが撮影した九十九島のさまざまな岩。左の写真は何かの動物にも見えませんか。



佐世保を表現する ～させ保のまちに魅せられて～

皆さんは、佐世保のまちにどのような魅力を感じていますか？ 普段見慣れている景色や通り慣れた道、何気なく通り過ぎる場所などにも、わたしたちの気付かない魅力が隠れているかもしれません。

今回は、写真、絵画、歴史研究、音楽など、さまざまな分野で佐世保を表現している市内在住の5人の皆さんにお話を聞きました。

5人の佐世保のまちへの思いや感じ方を通して、皆さんも新しい佐世保を見つけてみませんか。

